

市民派首長自治体懇談会（虹と緑の 500 人リスト関西ブロック企画）

2002 年 12 月 6 日

於 尼崎市立労働福祉会館

司会 桂 睦子（虹と緑の 500 人リスト スポークスパーソン、茨城市議）

コーディネーター 増田 京子（虹と緑の 500 人リスト 箕面市議）

今回ご参加下さった各自治体の方々

- ・ 千葉県 高橋てる子さん（堂本 千葉県知事）
- ・ 広島市 香川 恭子さん（秋葉 広島市長）
- ・ 国立市 小林 英雄さん（上原 国立市長）
- ・ 徳島県 徳島市議 村上 稔さん（大田 徳島県知事）
- ・ 尼崎市 白井 文さん（尼崎新市長）

参加数約 50 名

平日の昼間にもかかわらず地元尼崎市をはじめ、全国各地から、市民、市議、立候補予定者の方が参加。

まず、司会者の桂 睦子さんより、今回の自治体懇談会を持つ運びとなった経緯と趣旨が説明された。

懇談会の経緯と趣旨

全国各地、様々な自治体で市民派の議員が増え、市民派の首長がわずかながら増えてきた。喜ばしい反面、長野県の例にあるように「議会と首長の関係」をどうしていくのか、当選した首長を応援した議員、市民は今後どうサポートすればいいのか。

又、市民派の首長間、自治体のサポーター同士のネットワーク作りをどうするのか等、課題は山積である。

初登庁を 12 月 12 日に控えた白井文さんに対し、どんなことに気をつけ、またどんな姿勢で議会に臨み、職員と会話を進めればよいのかを、全国各地のみなさんとともに知恵を出し合い、お互い学ぶ。本日の会議を皮切りに、このような会が続ぎ、市民派首長が増えることを願い、急遽懇談会をもつ運びとなった、旨の説明があった。

尼崎市長選を振り返って。白井文さんからの報告

- ・ 選挙戦では市民に対して「共に市政を変えねばならない、」とし、従来の選挙にありがちな「私に任せてください、」といったメッセージは一切出さず、今の市政を変えていこうと思うのなら、又市政を変えていけるのは有権者なのだから、候補者をしっかり検討し、自身の意思で選択するようメッセージを出し続けた。
- ・ 今回の争点であった財政再建問題については、
現職が、（相手方）が役所内部で作成したプラン - 「経営再建プログラム」を出したのに対

し、市民の視点での改革なしに本当の財政再建はありえないとし、「みなさんと一緒に考えましょう」と「共に変えていこう」とのメッセージを打ち出した。

- ・ 任せたら任せっぱなし、任せられた方も任せられたのだからと、一切の報告なしの従来との関係から脱却し、有権者が市政運営をチェックしていくことの重要性を訴えた。
- ・ スーパーや商店街、で上記のメッセージを出し続けたところ、最初は鈍かった反応が、後半には徐々に共感のメッセージを寄せてくれるようになり、確かな手ごたえを感じたこと。しかし、重い税負担を強いられている給与所得者（扶養家族がない若い単身者など）には上記のメッセージがなかなか届かない、届けられなかったことが反省点。
- ・ 過去最低だった市長選の投票率（32%）については、地域活動が盛んな尼崎の現状（高齢者への給食事業や子育てサークル、等々々々な住民活動）から考えて、市民の政治参加やまちづくりへの参画意識は必ずしも投票率だけでは推し量れないと考えている。
- ・ 今回支えてくれた議員の多くは10年前のカラ出張事件 - 共に尼崎を変えようと情熱をもって出直し選挙に臨み当選した同期の議員であり、遠慮なく応援を頼めた。
- ・ 政党と市民団体が一つとなり選挙戦が行われ、今なおこの関係が維持できている。
- ・ 推してくれた政党とも政策協定は結ばず、しがらみのない選挙ができた。
- ・ 候補者本人の個人負担なしの金のかからない選挙をすることができた。 - ボランティアによる選挙。選挙資金はすべてカンパで賄われた。

* 最後にこれからの自治体の長や選挙のあり方を考えたとき、今回の尼崎の選挙(金のかからない、ボランティアで一人一人が情熱をもって取り組んだこと、政党とのしがらみのない選挙)が行われたのは理想的であったし、全国に発信し得る事例になったと思う、と述べられ、自治体同士のネットワーク、政党会派に所属しない人たちのネットワークづくりの必要性を訴え、締めくくられた。

白井さんの報告をうけ、司会の桂 睦子さんからは市長選に参加し、大変楽しい選挙だったことをのべられ、コーディネーターの増田京子さんは長野、国立市、徳島、それぞれの地域で起こっているうねりが今回の尼崎でも連動してきたのではないかと、との感想を述べられた。

続いて、各自治体からの報告。

徳島県 - 村上 稔さん(徳島市議)からの報告

「大田知事誕生の背景」と、「100円カンパの会」設立の経緯について

- ・ 今回の知事選が前知事の公共事業に絡む汚職事件が契機となった出直し選挙であったことから、知事が公約としてまず第一に掲げたのが、「汚職構造を断ち切る」だった。
- ・ 大田知事は前知事の汚職事件構図の解明、過去の工事請負契約の調査、再発防止策を検討するため、「徳島県汚職問題調査団」(調査団は弁護士3人と公認会計士2人で構成。代表には、京都府で市民運動をされている折田泰宏弁護士が就任)を設置する考えを明らかにし、県議会に調査団の費用として1000万円の補正予算を提案したが、多数の県議会野党の反対にあ

い予算は削除。県議会で認められなかったことに反発した市民団体が調査団設置の賛否を問う「駅前投票」を徳島市の街頭で実施したところ、実に9割以上の県民が「調査団設置」に賛成。県議会が予算を否決するならば、県民自ら少づつお金を出しあって1000万の予算をつくらうとしたのが「100円カンパの会」だった。

市民は「大田知事を支える」というよりは大田知事を撰んだ、という徳島の民主主義を守るという考え方で臨んでいる。

- ・ **資料 - (12月6日朝日新聞)によると、**
「100円カンパの会」は調査団を巡る県議会の議論に問題点があるとして、公開討論会を県議会に申し入れ、与党議員だけでなく、一部野党議員も出席に応じたため開催が決定。

ジレンマ～ 支援者としての自分と市民運動をしている立場の自分

又、村上さんは、市民運動から大田さんを推した立場から、複雑な思いを述べられ、

- ・ 知事の仕事量の多さ、大変さ。その中で仕事をこなしている知事には敬意を持っている。しかし市民運動の立場から見た場合、知事の行動～多くのしがらみの中で『見直し』が最終的にできなかつたり、発言がぶれたり、見直し中止の連続。どうフォローすべきか。

政策実現に立ちはだかる壁の数々

一例として知事が公約に掲げていた徳島空港拡張・周辺整備事業の見直しの断念を挙げられ、

- ・ いったん決まった公共事業を断念することの大変さ。空港用地はゴミ埋め立て地なのでゴミ処分を受け入れる約束をしていた周辺市町村との約束が果たせなくなる。環境アセスメントの問題、公共事業を中断することによって逆に負担が増加するといった費用面の問題等。
- ・ 築きあげた工事を中断することによる、職員の表向きは静かだが、内面は激しく反発している事実。
- ・ 人事面においても知事が出す人事案(副知事、出納長)を様々な理由をつけ認めず、結果、知事業務遂行に支障がでてくる～それを野党議員が激しく糾弾。
- ・ 野党の知事攻撃の下地が出来上がっている。～知事に助言する官僚と野党議員との結びつき。
- ・ 上記の議会内の状況は市民、県民には見えず、知事への信頼が徐々に揺らぐ状況にある。

この厳しい現状にどう対処していくのか。「徳島県議会では与党議員が(知事を)支えられてない状況にある。支える与党も厳しい状況にあるが、暫くは、与党議員も一つ一つの案件に対して全力で支えていく、それによって少しずつではあるが希望が見えるのでは・・・」と述べて締めくくられた。

つづいて文教都市、市民自治の町として市外からも評価が高い国立市からの報告

東京都国立市(上原 公子市長) 小林英雄さんからの報告

(市民参加で変えよう会 資料より)

過去の国立市長選について

1967～1979年 「革新市政」(社共)市長時代

1979～1999年 「保守」(自公民)市長時代

1995年市議選挙における「開発推進型」市議の衰退

1999年4月 市長選の取り組みについて

選挙戦の(課題)争点・・・環境・福祉・教育

多摩地区ワースト1の財政難自治体

人口増による税収増・・・用途地域の過剰緩和によるマンションラッシュ

景観破壊(景観権裁判、景観形成条例)

受益者負担増・・・下水道料金、保育料、国保税-値上げラッシュ

選挙戦

- ・ おまかせ政治からの脱却～市民参加の呼びかけ - =共に市政を変えていこう メインスローガン 「あなたとつくりたいこのまちの未来」
- ・ 自民、公明、自由が推薦し3期目を目指した現市長と、市議を1期務め、社民、共産、生活者ネットの推薦を受けた上原さんとの一騎打ち - 上原さん当選。現市長は絶対負けないと考えていたようだ。
- ・ 選挙戦での勢いをいかに維持していくかが大切。

市民派市長の取り組み

- ・ 様々な市民参加の場を提供 これ自体は大事なことだが市民には目に見えた変化には映らない。
- ・ 政策面では 議会を通さなくてもよいこと、お金をかけないことに関し天才的な手腕を発揮。議会では市長支持派が時期によって多数になったり少数になったりしてきた。
- ・ 左からの批判も出ている 例えば保育料値下げしろ、など
- ・ 就任後、マンション建設問題をめぐる臨時議会を開いた際、自民党が議会をボイコット、当時は民主党が上原さんを支援している立場にあったので、過半数で臨時議長、仮議長をたてての議会開催。地区計画条例案は可決したが、「審議権を奪われた」などとして、自民党の市議が上原市長と出席市議13人と市長を相手どり訴訟を起こした。(来年1月に判決)
- ・ 中学歴史教科書採択をめぐり教育委員人事問題で議会が空転、流会。
- ・ 一般会計予算否決(2002年3月) など

広島市 香川恭子さんからの報告

広島市長選を間近に控えた現在も、(2003年2月2日投票)広島市長、秋葉忠利さんは、内々には出馬を仄めかす言動があるものの、正式には立候補を表明されていません。このような言動

を取らざるを得ない、秋葉さんの置かれている微妙な状況と広島の実況について、スタッフまたは支援グループという立場ではないが一市民としてお話をいただいた。

広島市長選を振り返って

市議会議長と、天下りして助役になった元官僚などが立候補 - これに対し市民の近いところで動き、働いてくれる人を探そうと動き出したのが市長選を 1 月 31 日に控えた 11 月。

当時国会議員だった秋葉さんに出馬を要請。

・市民のネットワークの大きなうねりがあったものではなく、広島を変えようと 20 ~ 30 人程度（主には秋葉さん国会議員時代に平和運動で共に活動したメンバー、当初広島ではほとんどなかった、教育や子育て、環境問題の部分で活動している仲間たち）が集まり、選挙戦に向け動き出した。

- ・選挙戦には虹と緑のメンバー、新潟市民新党、全国から勝手連が応援にかけつける。（主戦力が広島市外のメンバーであり、広島市民が中心となって選挙活動をしたとは言い難い。）
 - ・このように市民の支援が形として見えてこない状況の中、秋葉市長が取らざるを得なかった行動のひとつは 多数派の野党との協調路線だった。最初の 2 年間議会との大きな対立はなく、変化のない市政に市民の関心が徐々に薄れはじめた。
 - ・3 年目 - このままではいけないと、秋葉色を出そうと女性助役の起用に動き出す - 議会が反発 最終的に無記名投票で決めることに。結果は 3 票差で否決。今回の騒動によってようやく実情を市民が知った。
 - ・市民は支え続けるということができなかった。
 - ・このような広島の実況の背景として、
 - ・外から見た広島のイメージ - 平和都市 - 政治意識が高く運動が盛んなイメージ。実際には、原水禁と原水協の対立、分裂したあたりから、政治アレルギーが強いまちである。市民運動は起こるものの、政治とは一線をひく - 特定の会派、首長を支えるといった繋がりを持たない。
- といったところにあるのでは、と述べられた。

最後に、木更津市長選に出られた高橋てる子さんからの報告。高橋さんは市民ネット（子育て、環境、福祉、教育、などの問題について学び、議会で提案している政治団体、市民グループ）にも関わっておられ、今回は堂本さんを支える意味で千葉県議選に挑まれようとしている。

千葉県 高橋 てる子さん からの報告

本論に入る前に、千葉県議会において「男女協働参画条例」が否決された旨の報告があった。議会が始まって以来、条例が否決されるのは初めてとのこと。県議会では市民ネットの岩橋さんと三番瀬問題から出た方、この 2 人が少数与党として知事を支えている。

高橋さんご自身が出られた木更津市長選について、

- ・前市長の汚職、準備期間ナシの突然の出直し選挙。

市議の経験はあるものの、市長選に当選するということが = 市議当選ラインの 10 倍以上の票を獲得しないと行かない。市長選は堂本知事の誕生がなければあり得ないことだった。

- ・ 選挙戦では相手方（前助役）が政党や主要団体の推薦を取り付けた「相乗り型」に対し、殆ど政党の応援なしでの選挙。そんな中、自身敗れたが、当選した相手方の得票(2 万)の約半分をとったことはすごいこと。

首長当選後我々は何をするべきか 堂本さん当選後

- ・ 堂本さんを県知事に送り出したとき、形は与党だが、ひも付きにならない関係を宣言。（あくまで知事は県民と手をつなぐべきである）
- ・ しがらみのない中、堂本さんはやりたいことを存分にできる。議会对策が必要なものは後回しにして、知事権限でやれることをどんどんやっていく。
- ・ 数の力が決定権をもつ県議会の中、彼女がうまくやっていけるのはなぜか。
当選後の 4 月間、相手がどういう動きにでてくるのか徹底的に観察、情報収集した上で 9 月議会に臨み、反対にあうと、「もう一度選挙をやりますか、選ぶのは議会でなく県民なのですよ」と押し切って行く。以降、議会ごとにホームランとはいかなくてもヒットを出し続ける。
- ・ 県民との対話を常にとる

高橋さんは、白井さんへのメッセージとして、「市民を味方につける」、「情報公開をしていく」、「感情ではなく科学的な理詰めの説明をいかに市長側がしていけるか」が大事。

また、堂本知事が男女共同参画条例をめぐる反対にあった時、自民党と約束したが、（4 つの修正案のうち 2 つを譲れば通す）結局、議会では否決された。この経験から、「開かれた場所での議論」の大切さを述べられた。又、首長にとって行政のしくみが最もよくわかるのは「予算」でも「決算」でもなく日々の「決済」だ、との教訓もいただいた。

以上で各自治体からの報告が終了、10 分間の休憩の後再開。

後半の討論に入る前に、司会者の桂さんより、12 月議会等で、本日の懇談会を欠席された方のメッセージが読み上げられた。要約して紹介する。

長野県議会チェックフォーラム 代表世話役 後藤 孝志さん

長野県の田中知事がそうであったように、白井さんも少数与党という議会の中で、野党議員との闘いに挑まれることになるだろうと思います。その時に重要なのは、「首長を誕生させた支援者、有権者の議会外のムーブメントづくり」であると、長野の件から学びました。議会が始まり、首長の政策と決断に対して、野党勢力となんらかの対立を起こした場合、マスメディアは政策課題の本質、住民意識、といった調査報道をせず、対立構造（首長対議会）のみに焦点をあてた政局報道に終始するでしょう。

その時、支援者に求められるべきことは 首長の政策や決断を正當に評価し、世論を喚起できるような仕掛けづくり 議会そのもののあり方をチェックしていく仕掛けづくり（野党勢力の既

得権構造を公開しながら解体していく) 住民参加による意思決定システムの構築。ではないでしょうか。「市民派」とは決して呼べない市民にも届く言葉、キャスト、デザイン、演出をこそ私たちは追及した方がよいのだと思います。白井さん、そして今日お集まりのみなさん、それぞれの場所に独り一人しっかりと足をふんばって頑張りましょう。私も、私たちも負けないように絶対に頑張ります。

千葉県議 岩橋 百合さん

今、県議会中で昨日から代表質問が始まりました。(自民党議員に対して)堂本県知事の、逃げずに正面から受け止め論戦している姿はさすがです。しかし論戦の場面で勝っていても数の力がものをいう議会に対して対して知事は、完全な情報公開で政策を作るところから県民に示してやってこられました。そうすることで県民が味方になってくれる、ということなのだと思います。

就任直後から「県民との対話集会」を始め、その際には自分がインタビュアーになって県民にマイクを向けるのがスタイルになっています。

又、知事は基本的に「柔軟」なので「公共事業は全部悪」的な発想はありません。(千葉県の半島性、道路の悪さは何とかしなければならぬと思っているようです)

長年の懸案になっていた事項については、第三者機関を入れてその公開審議に委ねています。従来の5カ年計画や前知事の構想をあまり重視していませんが、決してそうは言わず、激動する時代に合わせ、優先順位をつけた、という言い方をされている。そういわれると反論は難しいと思います。女性首長時代の本格的な始まりを感じさせる状況のなか、白井さんにはご苦労もあるかと思いますが、市政を変えていける実感も感じておられるのでは……。全国の女性が応援しています、お体に気をつけて、道を切り開いて下さい。

鎌ヶ谷市議 篠崎 史範さん(メッセージの印刷が間に合ったため、配布。朗読は割愛)

尼崎にお集まりの皆さんへ

鎌ヶ谷市議 篠崎史範

今日は欠席となりまして、本当に申し訳ありません。私自身も大変楽しみにしていたのですが、議会中ということで、時間調整が付きませんでした。

鎌ヶ谷市は、この5月、市長及び助役が、公共工事入札伴う贈収賄疑惑で逮捕され、7月に市長選が行われました。5人の候補者が立つ乱立の選挙でしたが、市民グループが中心となって推した清水きよし氏を僅差で当選させることができました。市民グループには、とにかく19年続いた前市長の継承だけはだめだという一点のみで、共産党支持に近い人から自民党支持者まで幅広い市民が集まりました。いわば寄り合い所帯で、選挙戦が実質1ヶ月半という短期決戦なければ、途中で空中分解してしまったかもしれません。それをそのままいままひきずって、現在のいわゆる市長の市民応援団である「後援会」づくりには、来年4月に市議選が控えていることもあり、大変苦労しています。

さて、新市長は、議会では少数与党でスタートしています。しかし、議会の大多数を占める自民党系の議員さん方にとっては、首長の近いところにはいなければ、市民や業者からの「口利き」業務はできませんから、選挙直後から「近づきたい」という雰囲気はありあり。今のところ、首長と議会の決定的な対立はありません。そのあたり、千葉県知事と議会の状態と似ているかも知れません。

就任以来4ヶ月、広報を初めとし、議会に対する説明も含め、情報公開は確実に進んでいます。これが最も大きく変わった点です。ただ、実質的な行政改革は、これから。鎌ヶ谷市は、来年度から急激に財政が悪化していきます。これは、ここ4~5年の間に大変多くの公共事業を行ったことと、扶助費の増加、国保などの繰り出し金の増加、交付税の減少など、多くの自治体と同じ状況です。いわゆる投資的経費は、脱ダム宣言をするまでもなく、来年度は、今年度の半分になる見込みです。このような中で、いかに手腕を発揮するか。金がないということの市民と議会への周知は、この4ヶ月間で進みましたが、次に、ではその中で何をいかにやっていくかが、これからです。

今回の意見交換会は、本当にいい機会でしたのに、残念でした。わたしたちの市民グループの代表の塾経営者にも、時間調整をお願いしたのですが、今後皆さまのご活躍をお祈りしています。

メッセージではないが、長野県議会の島田さんからご送信いただいたものをコーディネーター増田さんが朗読。島田氏は議会最大会派・県政会所属の立場でありながら、田中知事不信任決議案の採決時に退席された。そのときの心境を次のように述べられている。

「不信任案に賛成するかどうか最後の最後まで悩みました。同僚議員との長いお付き合い、本当に私のことを思ってくれている人からの忠告、このままここに留まれば、という自己防衛本能、一方で信州の自然を裏切ることにならないかという戸惑い、知事の改革に対する共鳴、そして何よりも私を支えて下さる方々、県民の皆様の選択がどちらにあるのか、問題が問題だけに広く皆様のご意見を聞く機会を持つこともできず、それだけに自分の進もうとしている道にもうひとつ自信がなく、前の晩はほとんど眠られぬままに考え続けてきたわけですが、結局最後の一瞬に『そうだ、知事の改革の是非はやはり県民の選択にまかすべきだ、自分の姿勢も県民の意思を心で感じるままに動こう』と決断し下崎県政会団長に心からのできる限りの万感を込めた一礼を送って議場をでた・・・。」

コーディネーター：今まで一緒に議会活動をしてきた人たちに反対の態度を表明することの難しさが浮き彫りにされていると思う。このあと島田さんは長野県知事選で全力で田中知事を応援したとのこと。千葉県の高橋さんの話のなかにもあったように、今の時代は、やっていかねばならない、やらねばならない、後ろから後ろからおされているような時代なのかな、ということを少しずつ感じている。各自治体の皆さんからはその中での厳しさをお話しいただいた。少しずつ時代は動いている。その歩みを止めてはいけないと思う。

各自治体の報告者とコーディネーターとの一問一答

Q：コーディネーター 先ほどの報告の中で、首長が少数与党であることから、年度予算が否決される、と言った話があったが市民生活への影響は？

A：小林（国立市） 昨年度は、年度内に予算が決まらないため、4月1日から施行の福祉関係の支払い費用が遅れた。今年度は年度内に臨時議会を開き問題のあった、（もめた？）部分の予算を修正することにより、（臨時議会を通したので）直接の影響はなかった。

Q：徳島空港拡張事業見直しによって影響は出たのでしょうか

A：村上徳島市議（徳島県） 見直していなければ、既に着工していたので空港業者への影響は当然でただろう。空港問題に関する臨時議会でのこと、ふと、気がつくと思事を追及している議員が、空港工事の事業者の関係者だった。

これらの人たちが必死になって知事をいじめている。生活がかかっていると言えればかかっている訳で、（笑）。話は変わるが、知事が当選後、しばらくして、郡部の方の小さな公共工事が発注されてない事が発覚。後ほど地元の野党県議の嫌がらせだとの声が寄せられた。

Q：堂本さんに変わられた事で県民に対する影響、一番大きいのは三番瀬だと思うが、良い意味でも悪い意味でもその他の変化はありますか？

A：高橋さん（千葉県） 女性に関する問題 D・V（ドメスティック・バイオレンス）対策、などは大きく変化したと思う。又、テレビで県議会の様子を見る人が増えた。一番大きな変化は県市内の雰囲気、がらりと変わったこと。確かな風が吹いたと誰もが口を揃えて言う。

いままで敷居の高かった知事室も気軽に出入りできるようになった。学習会を開くと、今までは企画や総務といったエリート達が一番前を陣取り、ふんぞりかえていた。今では市民福祉的な課の人が前面に出てきて、あれこれ報告してくる。又、県の場合4%で財政再建団体になる。そうならないといけないと改革に足並みを揃えている。

Q：私も箕面の市長室なんてなかなか行く気になれないが、今度、尼崎で白井文さんが市長になって、行こうかなという気がしている。村上さんはいかがですか？

A：村上（徳島） 何回か覗いたが、だんだん行きにくくなった。というのも、秘書課の人が横にいて、誰が来て、何を話していたか聞く。知事もだんだん神経質になってきて・・・。

汚職調査団の時にも、事前に何故、弁護士と打ち合わせしたのか、知事公舎まで来てもらうのに対して、交通費はどうしたのか、など細かいことを追及してくる。こういうことが続くとオープンだったのが、クローズされるのでは。

Q：先ほどのお話で、広島は閉鎖的なところがあるのかな、と感じがしたが、秋葉さんが8月に出された（平和の）メッセージは、今までにない画期的な文章だと感激したのですが、秋葉さんが今後出られるとしたら市民として支えていきたいと思われるか？それと統一地方選、広島市議選、あるいは、広島県議選等にどういう風に関わっていかうと思われるのか、その辺を聞かせてください。

A：香川（広島市） 平和のメッセージには感銘を受けた市民も多かった。メッセージの直後は秋葉さんを支持する声があがったが、その時期だけで…。平和学習はよくするが、平和運動にはならない。まだ正式な出馬表明されていない段階でどうこう申し上げられないが、出られることを信じて支えていかないといけないと思っている。広島では市民派ネットを立ち上げて、次の統一選で5人ほど市民派の立候補を予定しており、それで何とか支えていける体制が少しでも作れたら、と思っている。

また、秋葉さんになってから、政策決定過程に市民の声をさせるシステムを作ってくれた。市民参画は少しずつであるが進んでいると思う。そのあたりをきちっと評価して、広く市民の方にも理解していただく、といったこともやっていかないといけないと思った。

Q：四人の方のお話を聞かれて、白井さん、なにかご質問あれば…

A：白井（尼崎） 皆様、本当に有難うございました。お聞きしているうちだんだん胃が痛くなりました。(笑) 本人がしっかりしないといけないのはもちろんですが、それを支えていく、市民、議員、議会のありようについて多くの問題点も出されたかと思えます。

私自身、野党、与党といった言い方はしたくない、是々非々でこれからはやっていかねばならないと思っています。しかし議会では是々非々でも、精神的な部分では支えがほしいのが現実的な気持ちです。ある首長さんから首長とは孤独なものだと聞かされ、どれだけ孤独に耐えられるかが成功の秘訣だと聞かされ、それぞれの皆さん、首長はどういう形で孤独さを癒してらっしゃるのかをお聞かせください。(精悍で賢そうな横浜の中田市長の話を取りあげられ、) 又、首長のかっこいい部分だけではなく抜けているところも紹介していただき、私に活力を与えていただきたいなと…。」

香川（広島） 秋葉さんの場合、元国会議員であって、という言いかたがいいかどうかかわからないが、距離感がある。市民と対話の時間を持っておられるが、届けた側としては届いたかどうかかわからないという実感をもっている。

高橋（千葉県） 表の知事室、裏の知事室と知事室が二つに分かれていて、裏の知事室に入るのには秘書の人もノックしなければ入れない。そこに特別秘書を置いて堂本さんと二人三脚で仕事されている。県民から直接きたメールや FAX、- 中にいるととりまきの情報しか入らなくなる危険性があるので - これは50人いる秘書も見ない。それを特別秘書が取捨選択して知事に届けているので常に情報が入ってくる。その特別秘書の人件費の予算がついているのかどうかかわからないが、そういうスタッフをガラス張りの市長室の裏の部屋に置かれたらどうか(笑)

小林（国立市） 上原市長はあまり弱音を吐かれない。～市長だから外部から特別秘書をいれることはできない。予算、人事等は首長の権限だからうまく使ってやっていくしかない。(尼崎の市長選では) 市職員労働組合が推薦とあるが、組合側が本気になって市長を支えるため、自分たちの要求や利益を置いて、本気になって協力していかねば、難しいと思う。

村上（徳島市） 住民投票の話とは違い、この話になると情けない話しかできなくてつらいのだが、大田知事はほんと孤独そうですね。

特別秘書とか（市民から知事に直通の）独自の FAX の話がありましたが、非常に必要だと思います。1 日の話の殆どが周りの職員の話。我々とは時折電話で話すといった、その程度の情報量しか入ってこない。1 週間もすると距離ができてしまう。市民との距離を常に意識してもっておくことは非常に大事だと思う。田中康夫さんのエネルギー源もそこにあると思う。

Q：大田知事が知事になったとき、知事レクチャーで缶詰状態で外部と連絡が殆ど取れない状況だったと聞いているが本当でしょうか

村上（徳島） 意図的にやられているのかどうか？ どこでも最初のレクは大変らしいが、山のような案件がきて即決済を求められる。到底判断ができないような情報量の中で決断停止状態に追い込まれる。そこをどうやって切り開いていくか。市民の方もしばらくはおおらかに様子を見てあげることが非常に大事だと思う。

Q：白井さんを支える側として、議員としていかに支えていくかをお聞かせください。

酒井（尼崎市議） 議会との関係を考えて、議会がある種抵抗勢力である、という図がどうしても浮かぶが、しかしそう考えるのではなく、これはいいふうを考えたい。

議会は市長の意見に対して反対意見が存在するところ。市長 VS 議会多数派なり、それぞれが権能をふるって闘うことが元々の市長と議会の本来の役割だから、その役割をお互いに捻じ曲がった格好にしないように、お互いに権限をつくして正々堂々とわたりあっていく。

正攻法、まっとうな地方自治のしくみが機能するというこの中でしか私たちはやっていけないのだと思う。

Q：今回の尼崎の選挙を仕切って？いただいた稲村さん、今後どのようにして支えていこうかと思っらっしゃいますか。

稲村（尼崎市） 酒井さんが言っていた正々堂々のプロセスがいかにみんなの興味をずっと惹きつけられるか、というところが難しい。本当は議事録とかを読んでもあればこんなに簡単なことはないが、そうはいかない。低投票率の中での当選だったので、市民的な関心を盛り上げていかないと白井さんの味方は増えていかないと思う。それがいわゆる運動をする形なのか、もしくは白井さんが市役所そのものを変えていく中で、今までとはぜんぜん違う広報がなされ、いままでは読む気のしなかった広報を読んでもみようというものがでてくるとか、。

選挙本番中、最後は若いメンバーで頑張ったつもりだが20代、30代の参加が少ないというのが感想。

選挙に関わったメンバー中心に、若手に政治の興味をもってもらえるよう、特に同世代から発信していきたい。白井さんの近くにおいて、自分も色々勉強をして、白井さんからも発信、私たちも私たちの言葉で発信していく取り組みを考えていかないといけないと思っている。

橋本（久留米市）（溝上澄夫予定候補の支援者） 無投票選でスキャンダルまみれの中での当選した現職に対し51才民間出身の溝上が立候補する。やり方によっては充分勝てる選挙だと思っている。白井さんが当選され、まさに追い風ということで緊急連絡して集会をもった。平日

で集まりも悪かったが酒井尼崎市議にも話をしていただき勇気の出る集会を持つことができた。

久留米市が変われば九州が変わる、九州が変われば日本が変わる、日本が変われば世界が変わるという意気込みでやっているのでは是非ご支援よろしくをお願いします。

Q 最後に言い残したことを一言ずつお願いいたします

高橋（千葉県）

バスを待っている間、尼崎のまちの人に、女性市長になってどう思われるかインタビューした。

「市長をやっている大変なのは同和問題だと思う。これにしっかり向き合わない」と - 男性

「福祉の部分を削ったら次（の選挙）はダメ。」 - 女性

はっきりとものをいう白井さんを評価する声が多かった。先ほどおっしゃったように正面から理論武装して公開、というのが原則だと思った。

小林（国立市）

上原市政になり、土木関係予算は 1/4 になった。三多摩地域でも下から 2 ~ 3 番目だった経常収支比率もよくなり、ここ 3 年半は公共料金の値上げその他はやっていない。値上げしないとの公約を果たしてきているが、2005 年ぐらいに団塊世代の職員の退職（退職金支出）が集中し調整基金のとりくずしもある。この段階でなんらかの市民負担をせざるを得ない。われわれはどの部分を負担していくのかを真剣に一緒になってやらねばならない場面が遠からずくる。ここで応援する市民として、行政との関係における市民としての関わり方（行政が市民参加の色々な広報をするそれにずっと関わり参加していくというような）をこれまで以上に強めていくことと、市長個人を支えていく活動と同時にやっていかねばならない。選挙後、`選挙中の勢い`を維持していくのは大変だ。政党、団体の力を借りずに個人市民の力で支えていくには相当腹を決めてそれぞれが頑張らないと。市長がかわればがらりと変わる、といった期待は強い。そこは長い目でみて、当面何と何ができるのか、これからを始めようということをきちんとしておいて一つ二つ何かからやってみる、というような長い目でみた市長の頑張りと応援する方の頑張りをしていただきたい。

有事法制では廃案を求めた意見書を市長として総理大臣宛てに提出した。住基ネットでも近く動きがあるだろう。

国立市長メッセージ(全文)

「白井さんへ

まずはご当選おめでとうございます。すばらしい市民の選択は、長い長い尼崎の市民の皆様の生きる権利をめぐる闘いの経験と力の蓄積の賜物だと思います。市民として権力と闘う時と違い、自治体の長はすべての市民一人一人への公平な態度と責任が常に問われます。多方面から実に様々な情報がもたらされ、常に平常心を保つのは本当に大変なことです。

しかし、いかなるときも組織の長は市民の代表であることの原点にたちかえれば、揺らぎはなくなると思います。また、首長は目前の現実のみとらわれることなく、トータルな視点、長期的な視点での経営力も要求されます。市民の力を借りながら、慌てず、じっくり、長い間しみつ

た職員の一方向的な発想を変え、育てることが大切だろうと思います。

支援者の皆様へ

皆様の全国へ発信した希望への道は大きいものがありました。心より感謝致します。市民派首長は、想像以上に孤独の中で決断を迫られる職です。選挙の勝利はほんの一步にすぎません。

真の民主的自治は時間をかけてこれから築きあげていくものだと思います。首長一人で決して成し遂げられるものではありません。経験した事のない困難な道を持続的にパートナーとして学習し続ける事こそが自治の力となると思います。まちはあらゆる価値観の人が共存して成り立つものです。合意を図るための歩み寄りには時には後退したようにみえても、着実な一歩であることを信じて、孤軍奮闘の首長にさせないよう、寛容さをもって共に支え続けて下さることを切に願います。皆様のご活躍を遠き国立市よりお祈り申し上げます。」

国立市長 上原 公子

村上（徳島県）

酒井さんの「正々堂々と・・・」あったが、うちの知事をみてもマスコミの論調とかに振りまわされる部分が多い。先ほどの長野県からのメッセージにもあるように、マスコミは権力者になった途端、反権力 - これはジャーナリズムの本来の姿かも知れませんが - 首長の悪い部分に着目したがる部分がある。

一方きちんと推し進めている部分についてはさほど注目していただけない。長野の不信任を巡る一連の事で思ったことは、田中知事がきちっと県民の方を向いている、という点においてまったくぶれなかったことが最終的に長野県の結果になったと思います。

マスコミの論調に知事自身影響を受けていますが、県民はむしろきちっとやっていたらニュースの端々から、知事の頑張っている、苦しい部分を読み取る。読み取る力が、偉そうにいうと育ってきている。議会やマスコミに向かってではなく、市民に向かってきちっとしゃべっていけば最終的に支えになっていくのだろうな、という気がします。議員になって思ったのですが普通の感覚で正々堂々とやっていたら、それはなかなかみてくれない。わざとらしく、不自然なぐらいアピールして初めて正々堂々とやっていると評価してくれる。

話は変わるが、徳島では市民県民が野党議員を公開討論の場に引っ張りだしてきて県民と直接討論する段階にまできている。先ほどの100円カンパの会では20代から30代の若い女性が力を発揮しています。駅前で踊ったり、それこそ我々が到底できないようなアピールをする。それをみた議会の野党の恐ろしいおじさんたちがビビっている。議会外の動きは、一人の議員がどうこうする以上の影響力を持つと思う。～(略)～

～いい意味で軽く選挙に出られる状態を作っていけたら - 「私も私も、」となった瞬間にブレイクできないかなと・・・。

コーディネーター

いまのこの流れを統一選につなぐことができたら、と思う。虹と緑の500人リストも統一選に向け動いている。長野の田中さんが不信任を跳ね除けて再選されたことで各自治体の首長も沢山の田中派が生まれた。長野は今まで地域によっては無投票の県議選もあったが、これからは無投票はやめよう、必ず対立候補を出そうと、(長野県議チェックフォーラムの)後藤さんも動かれ

ている。千葉県の堂本さんのところも、千葉ネットもそうだが、女性でやはり県議にならなければという動きも出ている。兵庫県の尼崎市は残念ながら市議選は統一選ではありませんが、兵庫県政で支える、というやり方もあるので県議選に臨まれていくこともあると思う。広島でもきつとそういう動きがあると思うので、このうねりを次の選挙につなげていければと思う。最後に白井さん感想をお願いします。

白井

「話を聞いていて大変さを感じたが、話を聞いていくうちに自分らしくやっていくしかない、と思った。最初はどんなことでも一人から始まった。一人が一人が自分にできることをしていく。それしかない。(選挙戦で訴えてきたことがどの自治体でも問題になっていることを取り上げられ)どの自治体でも見える政治、わかりやすい政治、見えるお金の使い方、しがらみを断つということ、それを基本精神で首長が政治をやっているんだということを感じた。

(10年前の尼崎でのカラ出張事件にふれられ)全国ではじめて、市民が議会議を解散に追い込んだ。その後市民の動きがみえなかったようにみえたが、水面下では脈々とうけつがれてきた。

今回の市長選では普通では考えられない投票行動に結びついたのは市民のエネルギー、力がある証拠。「市民と対話する」「市民にわかってもらおう」「市民と一緒に進む」を基本にがんばっていきたい。また、マスコミで全国的にとりあげてもらっているのは、全国的な政治の閉塞感、不信感に対し、尼崎からメッセージとして「希望」とか「夢」とかそういう形で表すことができるのではないかという注目をしてもらっている裏づけ、とらえられる。

(虹と緑のメンバー、船波恵子さん(品川区議)が来年区長に立候補されることを紹介され)「一人の力が一人の力を動かして、又つながっていく、こういう風に流れを起していくことが政治の流れを変えていく力になるのでは」

と述べられ、「一人の力を信じ、多くの力を信じてがんばっていこうと思う」と結ばれた。

最後に、虹と緑の500人リスト全国事務局長、酒井尼崎市議から閉会の挨拶。

酒井

首長に到達した市民派の現場をしっかりと背負った人々、の話を聞いたことは大変良かった。

今回は急な着想で準備不足の面もあったが、次はもっと良い時期に、今度は議会中で参加いただけなかった首長や議員にもご参加頂いて、もう一度やりましょう。有難うございました。

閉会